

目次

第1章 総論 …………… (編集:佐藤 繁) 1	(2) 弁膜疾患 …………… (北川 均) 51
1. 病歴の聴取(問診) …………… (佐藤 繁) 1	(3) 肺性心, 肺高血圧 …………… (北川 均) 53
(1) 個体の経歴 …………… 1	(4) 心筋疾患 …………… (北川 均) 53
(2) 個体識別 …………… 1	(5) 心膜炎(心嚢炎) …………… (大場恵典) 55
(3) 発病とその後の経過 …………… 2	(6) 心臓の腫瘍 …………… (大場恵典) 56
(4) 飼養管理 …………… 2	(7) 血管の疾患: 動脈瘤, 血栓症 …… (大場恵典) 56
(5) 舎内環境 …………… 2	(8) 心房細動 …………… (北川 均) 58
(6) 舎外環境 …………… 2	(9) 心室性頻拍 …………… (北川 均) 59
2. 身体検査 …………… (内藤善久) 2	
(1) 行動観察 …………… 2	第3章 呼吸器疾患 …………… (編集:日笠喜朗) 61
(2) 視診 …………… 2	1. 呼吸器の解剖と機能 …………… 61
(3) 触診 …………… 3	(1) 呼吸器の位置と構造 …………… (杉山晶彦) 61
(4) 打診 …………… 5	(2) 呼吸器の機能 …………… (日笠喜朗) 61
(5) 聴診 …………… 6	(3) 呼吸器の機能に影響する要因, 血液ガス・ 酸-塩基平衡の調節 …………… (日笠喜朗) 62
(6) 主要症状 …………… 7	2. 呼吸器疾患の診断と処置 …………… (日笠喜朗) 63
(7) 予後判定と処置 …………… 12	(1) 上部気道の診断と処置 …………… 63
3. 臨床検査の意義 …………… (佐藤 繁) 13	(2) 下部気道の診断と処置 …………… 63
(1) 検査の意義 …………… 13	3. 鼻腔・副鼻腔・気管の疾患 …………… 63
(2) 検査の種類 …………… 13	(1) 真菌性および細菌性肉芽腫 …… (日笠喜朗) 63
(3) 検体の取り扱い方 …………… 14	(2) アレルギー性鼻炎 …………… (日笠喜朗) 64
(4) 検査値の読み方 …………… 14	(3) 鼻腔の異物 …………… (日笠喜朗) 64
(5) 特殊検査 …………… 16	(4) 鼻腔の腫瘍とポリープ …… (岡本芳晴) 64
4. 画像検査 …………… (萩尾光美) 17	(5) 副鼻腔炎 …………… (日笠喜朗) 65
(1) X線検査 …………… 17	4. 咽頭, 喉頭の疾患 …………… (佐々木直樹) 65
(2) 超音波検査 …………… 19	(1) 咽頭炎 …………… 65
(3) X線CT検査 …………… 24	(2) 咽頭虚脱 …………… 66
5. 基本的な予防法と治療法 …………… 25	(3) 軟口蓋背方変位 …………… 66
(1) 輸液療法 …………… (鈴木一由) 25	(4) 喉頭蓋捕捉 …………… 67
(2) 感染症の治療と予防 …………… (猪熊 壽) 28	(5) 喉頭蓋下嚢胞 …………… 67
(3) 寄生虫病のコントロール …… (猪熊 壽) 35	(6) 喉頭片麻痺(喘鳴症, 反回神経麻痺) …… 67
(4) 栄養障害の予防と治療 …… (木田克弥) 40	(7) 喉頭炎 …………… 68
	(8) 喉頭の肉芽腫, 乳頭腫, 膿瘍 …… 68
第2章 循環器疾患 …………… (編集:北川 均) 45	(9) 喉嚢炎 …………… 69
1. 心臓の解剖と機能 …………… 45	(10) 気管虚脱 …………… 69
概説部 …………… (那須哲夫) 45	(11) 気管の異物と腫瘍 …………… 69
(1) 心臓の位置と構造 …………… (那須哲夫) 45	5. 気管支および肺の疾患 …………… 70
(2) 心臓の機能 …………… (志水泰武) 46	(1) 肺炎の臨床分類 …………… (日笠喜朗) 70
(3) 心機能に影響する要因 …… (志水泰武) 47	(2) 気管支肺炎(呼吸器病複合体) …… (日笠喜朗) 71
(4) 心臓の検査 …………… (大場恵典) 48	(3) 気管支肺炎と関連する感染性病原体 …………… (杉山晶彦) 72
2. 心臓疾患 …………… 48	
(1) 先天性心疾患 …………… (大場恵典) 48	

(4) ウイルス性疾患 …………… (杉山晶彦) 72	(3) 第四胃潰瘍 …………… 104
(5) 細菌およびクラミジア症 …………… (猪熊 壽) 74	(4) 第四胃食滯・便秘 …………… 104
(6) 複胃動物の呼吸器疾患の疫学および 宿主と環境危険因子 …………… (杉山晶彦) 74	(5) 迷走神経性消化不良 …………… 105
(7) 急性呼吸促進症候群 …………… (日笠喜朗) 75	6. 腸疾患 …………… 106
(8) 過敏性肺炎 …………… (日笠喜朗) 75	概説部 …………… (渡辺大作) 106
(9) その他の慢性肺炎 …………… (日笠喜朗) 75	(1) 閉塞性腸疾患：腸捻転・腸閉塞 …… (渡辺大作) 106
(10) 寄生虫性気管支炎および肺炎 …… (猪熊 壽) 76	(2) 出血性腸症候群 …………… (小岩政照) 108
(11) 他の肺炎 …………… (猪熊 壽) 76	(3) 盲腸拡張症 …………… (小岩政照) 109
(12) 肺水腫 …………… (日笠喜朗) 77	(4) 感染性腸炎 (成牛) …………… (小岩政照) 109
(13) 肺気腫 …………… (日笠喜朗) 78	7. 子牛・育成牛の消化器疾患 …………… (小岩政照) 112
(14) 胸壁と胸腔の異常 …………… (猪熊 壽) 78	(1) 第二胃溝の機能 …………… 112
(15) その他の異常 …… (1. 日笠喜朗, 2. 岡本芳晴) 80	(2) 第一胃ミルク貯留 …………… 112
第4章 消化器疾患 …………… (編集：小岩政照) 83	(3) 第四胃拡張症 …………… 113
1. 消化器の解剖と機能 …………… 83	(4) 子牛の下痢症 …………… 114
(1) 反芻類 …… (1. 竹花一成・美名口順, 2. 翁長武紀) 83	8. 反芻動物の腹膜炎 …………… (安藤貴朗) 117
(2) 馬 …………… (1. 竹花一成・美名口順, 2. 翁長武紀) 87	(1) 腹膜の概要 …………… 117
(3) 豚 …………… (1. 竹花一成・美名口順, 2. 翁長武紀) 89	(2) 外傷に伴う腹腔疾患の病態生理 …………… 117
2. 口腔疾患 …………… 90	(3) 腹膜炎 …………… 118
(1) 歯の異常 …………… (佐々木直樹) 90	(4) その他の異常 …………… 119
(2) 唾液腺疾患 …………… (佐々木直樹) 90	9. 直腸脱 …………… (渡辺大作) 119
(3) 口蹄疫 …………… (片本 宏) 90	10. 馬の消化器疾患 …………… (樋口 徹) 120
(4) 水泡性口炎 …………… (片本 宏) 92	(1) 胃炎, 胃潰瘍 …………… 120
(5) 牛丘疹性口炎 (増殖性口炎) …… (片本 宏) 92	(2) 疝 痛 …………… 121
(6) アクチノバチルス症 (木舌) …… (片本 宏) 93	(3) 下 痢 …………… 123
(7) 放線菌症 (アクチノマイコーシス) …………… (片本 宏) 93	11. 豚の消化器疾患 …………… (伊東正吾) 124
(8) ブルータング …………… (片本 宏) 93	(1) 口腔疾患 …………… 124
(9) イバラキ病 …………… (片本 宏) 94	(2) 胃疾患 …………… 125
3. 食道疾患 …………… (渡辺大作) 94	(3) 腸疾患 …………… 125
(1) 食道梗塞 …………… 94	第5章 肝臓・胆道・膵外分泌疾患 …………… (編集：渡辺大作) 129
(2) 食道破裂 …………… 95	1. 肝臓病の病態生理 …………… (渡辺大作) 129
4. 前胃の疾患 …………… 95	(1) 肝臓の構造・機能と病態 …………… 129
(1) 第一胃鼓脹症 …………… (佐藤 繁) 95	(2) 肝臓の機能検査とその意義 …………… 130
(2) 第一胃食滯 …………… (佐藤 繁) 96	(3) 肝疾患に継発する疾病 …………… 133
(3) 第一胃アシドーシス …………… (佐藤 繁) 97	2. 黄疸および高ビリルビン血症 …………… (及川 伸) 135
(4) 第一胃錯角化症 (第一胃パラケラトース) …………… (佐藤 繁) 99	3. 肝 炎 …………… 136
(5) 創傷性第二胃炎・横隔膜炎 …… (安藤貴朗) 99	概説部 …………… (渡辺大作) 136
(6) 第三胃食滯・拡張症 …………… (安藤貴朗) 101	(1) 急性肝炎 …………… (渡辺大作) 136
5. 第四胃疾患 …………… (佐藤 繁) 101	(2) 慢性肝炎 …………… (渡辺大作) 139
(1) 第四胃変位 …………… 101	(3) 胆汁うっ滞性肝炎 (胆管性肝炎) …………… (渡辺大作) 141
(2) 第四胃捻転 …………… 103	(4) 肝線維症 …………… (小岩政照) 141
	(5) 肝膿瘍 …………… (渡辺大作) 144

(6) 肝リポドーシス …………… (及川 伸) 145	第7章 内分泌疾患 …………… (編集：山岸則夫) 173
4. その他の肝疾患 …………… (渡辺大作) 148	1. ホルモンと内分泌疾患 …………… (山岸則夫) 173
(1) 肝虚血, 低酸素およびうっ血 …………… 148	(1) ペプチドホルモン …………… 173
(2) 鋸屑肝(ソーダストリバー)・毛細血管拡張症 …… 149	(2) ステロイドホルモン …………… 175
(3) 胎子性肝障害 …………… 149	(3) アミノ酸誘導体ホルモン …………… 175
(4) 薬物の代謝と排泄に関する不全 …………… 149	(4) ホルモンの作用発現機序 …………… 175
(5) 肝臓の腫瘍(肝細胞癌, 胆管癌) …………… 150	(5) 内分泌機能検査 …………… 176
5. 胆嚢と胆管の疾患 …………… (渡辺大作) 151	(6) 牛成長ホルモン …………… 177
(1) 肝蛭症 …………… 151	2. 内分泌疾患 …………… 178
(2) 胆石症(肝結石症, 総胆管結石症) …………… 152	(1) 視床下部・下垂体疾患 …………… (山岸則夫) 178
(3) 胆管炎, 胆嚢炎 …………… 153	(但し: 1. 水谷 尚・山岸則夫)
(4) 胆管癌 …………… 153	(2) 甲状腺疾患 …………… (山岸則夫) 179
6. 膵臓の機能(外分泌)障害および疾患 …… (渡辺大作) 153	(3) 上皮小体疾患 …………… (山岸則夫) 182
(1) 膵臓外分泌機能の検査 …………… 154	(4) 副腎疾患 …………… (水谷 尚) 183
(2) 膵臓疾患の分類と原因 …………… 154	(5) 膵内分泌異常 …………… (水谷 尚) 184
(3) 急性膵炎 …………… 154	第8章 栄養・代謝性障害 …………… (編集：山岸則夫) 187
(4) 慢性膵炎または膵外分泌不全症 …………… 155	1. ケトーシス …………… (及川 伸) 187
第6章 泌尿器疾患 …………… (編集：安田 準) 157	(1) 羊の妊娠中毒症 …………… 189
1. 泌尿器の解剖と機能 …………… (安田 準) 157	2. カルシウム, マグネシウム, リンおよびカリウム
(1) 腎 臓 …………… 157	…………… (山岸則夫) 189
(2) 尿路系 …………… 158	(1) カルシウム …………… 189
2. 泌尿器疾患の診断 …………… (安田 準) 158	(2) マグネシウム …………… 196
(1) 臨床症状 …………… 158	(3) リ ン …………… 199
(2) 尿検査 …………… 158	(4) 牛の低カリウム血症 …………… 201
(3) 血液検査 …………… 159	3. ビタミン代謝性疾患 …………… (山岸則夫) 202
(4) 画像検査 …………… 159	(1) 脂溶性ビタミン …………… (但し: 3. 大和 修) 202
(5) 腎生検 …………… 159	(2) 水溶性ビタミン …………… 208
3. 腎臓の疾患 …………… 159	4. 金属ならびに微量無機元素欠乏 …………… (大和 修) 210
(1) 糸球体腎炎 …………… (星 史雄) 159	(1) 鉄欠乏症 …………… 210
(2) 腎盂腎炎 …………… (星 史雄) 160	(2) セレン欠乏症 …………… 211
(3) 溶血性尿毒症症候群 …………… (小川博之) 161	(3) 銅欠乏症 …………… 211
(4) 尿細管壊死 …………… (小岩政照) 161	(4) 亜鉛欠乏症 …………… 212
(5) 水腎症 …………… (佐藤れえ子) 162	(5) ヨウ素欠乏症 …………… 212
(6) 嚢胞腎 …………… (佐藤れえ子) 163	(6) コバルト欠乏症 …………… 213
(7) アミロイド症 …………… (小岩政照) 164	(7) マンガン欠乏症 …………… 213
(8) レプトスピラ症 …………… (奥田 優) 165	第9章 運動器・神経系疾患 …………… (編集：田浦保穂) 215
(9) 腎臓の腫瘍 …………… (古林与志安) 166	1. 筋疾患 …………… (帆保誠二) 215
4. 尿路疾患 …………… 167	(1) 筋系の検査法 …………… 215
(1) 包皮灸 …………… (渡辺大作) 167	(2) 筋緊張症 …………… 216
(2) 尿石症(尿路閉塞症, 膀胱破裂) …… (渡辺大作) 167	(3) ミオパチー …………… 216
(3) 膀胱反転および膀胱脱出(逸脱) …… (渡辺大作) 169	2. 骨関節疾患 …………… (山岸則夫) 218
(4) 地方病性血尿症 …………… (佐藤 繁) 170	(1) 骨関節疾患の一般症状 …………… 218
(5) 感染性膀胱炎 …………… (古濱和久) 170	

(2) 骨関節疾患の検査	219	(5) 薬剤・天然物質等による溶血性貧血	244
(3) くる病	219	(6) その他	246
(4) 感染性関節炎	219	5. 赤血球の産生異常による貧血	(稲葉 睦) 248
(5) 変形性関節症	220	(1) 赤血球の産生異常による貧血の概要	248
3. 蹄疾患	220	(2) 再生不良性貧血	248
概説部	(帆保誠二) 220	(3) 腎性貧血	248
(1) 馬の蹄葉炎	(帆保誠二) 220	(4) 鉄欠乏性貧血	248
(2) 趾の感染症	(岡田啓司) 222	(5) 慢性炎症に伴う貧血	249
(3) 蹄底潰瘍	(岡田啓司) 223	6. 多血症	(富張瑞樹) 249
(4) フェスクフット	(岡田啓司) 224	7. 止血の異常	(富張瑞樹) 250
4. 神経疾患	224	(1) 血小板の異常	250
(1) 神経系の検査法	(田浦保穂) 224	(2) 血液凝固系の異常	254
(2) 大脳疾患	(1~3.小沼 操, 4~7.田浦保穂) 226	8. 白血球の機能異常	(田島誉士) 255
5. 脳幹と脳神経障害を示す疾患	(小岩政照) 231	(1) 先天性機能異常	255
(1) リステリア症	231	(2) 二次性機能異常	255
(2) ヒストフィルス・ソムニ感染症	231	9. 感染症	256
(3) マイコプラズマ性中耳炎・内耳炎	232	(1) 牛白血病	(田島誉士) 256
6. 小脳疾患	(田島誉士) 233	(2) ヘモプラズマ病	(猪熊 壽) 258
(1) 先天性牛ウイルス性下痢ウイルス感染 による小脳形成不全	233	(3) アナプラズマ病	(猪熊 壽) 258
(2) 先天性疾患	233	(4) 牛タイレリア症	(猪熊 壽) 259
7. 脊髄および末梢神経疾患	(三角一浩) 233	(5) 牛バベシア症	(猪熊 壽) 261
(1) 馬のウォブラー症候群(腰麻痺, 腰萎)	233	(6) 馬伝染性貧血	(迫田義博) 262
(2) 遺伝性疾患: 脳脊髄変性症	234	(7) 馬ピロプラズマ病	(横山直明) 263
(3) 中毒性疾患: ボツリヌス中毒	235	(8) 馬トリパノソーマ病	(横山直明) 264
(4) 破傷風	236	第11章 皮膚病	(編集: 田島誉士) 267
第10章 血液・造血臓器疾患	(編集: 稲葉 睦) 237	概説部	(田島誉士) 267
1. 血液・造血組織の構成と機能	(稲葉 睦) 237	1. 外 貌	(田島誉士) 267
(1) 血液と造血組織	237	(1) 被 毛	267
(2) 血液細胞	237	(2) 皮 膚	267
(3) 血漿成分	239	(3) 可視粘膜	268
2. 貧 血	(稲葉 睦) 240	(4) 皮下組織	268
(1) 貧 血	240	(5) 角	268
(2) 貧血の分類	240	2. 皮膚病の検査	(田島誉士) 268
(3) 赤血球の再生像	241	(1) 材料の採取	268
3. 失血性貧血	(稲葉 睦) 242	(2) 培養検査	269
(1) 急性失血性貧血	242	(3) 細胞学的検査	269
(2) 慢性失血性貧血	242	(4) 痒みの検査	269
4. 溶血性貧血	(稲葉 睦) 242	(5) 痂皮と落屑	269
(1) 溶血性貧血の概要	242	(6) 感作試験	269
(2) 感染性病原体による溶血性貧血	243	3. 非感染性皮膚炎	(田島誉士) 269
(3) 免疫介在性溶血性貧血	243	(1) 蕁麻疹	269
(4) 先天性溶血性貧血	244	(2) 接触性皮膚炎	270
		(3) 光線過敏症	270

4. 感染性皮膚炎	270	(4) ストレス	287
(1) 細菌性皮膚炎	(菊池直哉) 270	(5) 宿主の免疫応答	287
(2) 皮膚糸状菌症	(菊池直哉) 272	9. 乳房炎の経済的損失	(河合一洋) 287
(3) 寄生虫性皮膚疾患	(猪熊 壽) 272	10. 二等乳 (アルコール不安定乳)	(永幡 肇) 287
5. 腫 瘍	(田島誉士) 273	第13章 感染症	(編集:猪熊 壽) 289
(1) 乳頭腫 (パピローマ)	273	1. 検査と診断	(猪熊 壽) 289
(2) 黒色腫 (メラノーマ)	274	(1) 感染症を疑う症例のアプローチ	
(3) 皮膚型牛白血病	274	—感染症としての鑑別診断手順—	289
第12章 牛の乳房炎	(編集:永幡 肇) 275	(2) 病原学的検査の方法	290
1. 乳房の解剖と機能	(永幡 肇) 275	(3) 臨床材料の取扱い	291
(1) 構 造	275	2. 牛の感染症	(田島誉士) 292
(2) 機 能	275	(1) ウイルス性疾患	292
(3) 乳腺の感染防御機構	276	(2) 細菌性疾患	293
2. 乳房の炎症	(永幡 肇) 276	3. 馬の感染症	(及川正明) 295
3. 乳房炎の診断と治療	(永幡 肇) 277	(1) ウイルス性疾患	296
(1) 診 断	277	(2) 細菌性疾患	299
(2) 治 療	278	4. 豚の感染症	(笹井和美) 301
4. 病原体の検出	(秦 英司) 278	(1) ウイルス性疾患	302
(1) 試料の選択	278	(2) 細菌性疾患	305
(2) 試料収集, 貯蔵, 取扱い	279	(3) 原虫性疾患	306
(3) 培地の選択	279	5. 羊・山羊の感染症	(猪熊 壽) 306
5. 乳房炎の種類	279	(1) ウイルス性疾患	306
概説部	(永幡 肇) 279	(2) 細菌性疾患	308
(1) <i>Streptococcus agalactiae</i> による乳房炎		(3) その他	310
(河合一洋) 279		第14章 中 毒	(編集:宮崎 茂) 311
(2) 黄色ブドウ球菌による乳房炎	(永幡 肇) 280	(執筆:宮崎 茂・山中典子)	
(3) マイコプラズマによる乳房炎	(河合一洋) 281	1. 中毒の発生と発症条件	311
(4) グラム陽性桿菌による乳房炎	(河合一洋) 281	(1) 中毒とは	311
(5) 環境性レンサ球菌による乳房炎	(河合一洋) 282	(2) 発症に影響する条件	311
(6) 大腸菌性乳房炎	(久枝啓一) 282	2. 中毒性疾患への対応	311
(7) コアグラゼ陰性ブドウ球菌による乳房炎	(永幡 肇) 283	3. 有毒植物による中毒	311
(8) 藻類による乳房炎	(河合一洋) 283	(1) ツツジ科植物	312
(9) 酵母様真菌による乳房炎	(河合一洋) 284	(2) 強心配糖体を含む植物	312
(10) その他の病原体による乳房炎	(河合一洋) 285	(3) アブラナ科植物	312
6. 乳房炎の治療	(河合一洋) 285	(4) オナモミ	313
(1) 抗菌薬	285	(5) ユズリハ	313
(2) 支持療法	285	(6) フラビ	314
7. 未経産乳房炎	(菊 佳男) 285	(7) シキミ	314
8. 乳房炎の予防	(林 智人) 286	(8) 光線過敏症を起こす植物	315
(1) 乳頭の状態	286	(9) ジクマロールによる中毒	315
(2) エネルギーバランスと栄養	286	(10) その他注意を要する植物	316
(3) 遺 伝	286	4. 飼料作物による中毒	316

(1) 硝酸態窒素	316	第16章 遺伝性疾患	339
(2) 青酸配糖体	317	1. 大動物の遺伝性疾患・概説	339
(3) シュウ酸	317	2. 血液・免疫系の異常	342
(4) インドールアルカロイド	318	(1) バンド3欠損症(遺伝性球状赤血球症)	342
(5) S-メチルシステインスルホキシド	318	(2) 先天性ポルフィリン症	343
5. カビ毒, 細菌毒および		(3) 牛白血球粘着不全症	343
ファイトアレキシンによる中毒	318	(4) 凝固因子異常症(牛)	344
(1) アフラトキシン	318	(5) チェディアック・東症候群(牛)	345
(2) トリコテセン	319	(6) IARS異常症(虚弱子牛症候群)	345
(3) ゼアラレノン	319	(7) 重症複合免疫不全症(馬)	345
(4) フモニシン	319	(8) 子馬免疫不全症候群(馬)	346
(5) ロリトレム	319	3. 代謝・内分泌の異常	346
(6) 麦角アルカロイド	320	(1) 先天性ポルフィリン症	346
(7) 一年生ライグラス中毒	320	(2) キサンチン尿症Ⅱ型(モリブデン補酵素欠損症)(牛)	347
(8) 傷害サツマイモ中毒	320	(3) ウリジル酸合成酵素欠損症(牛)	347
6. 農薬・重金属等による中毒	321	(4) 蓄積病	348
(1) 有機リン剤, カーバメイト剤中毒	321	(5) 脂肪壊死症	348
(2) クマリン系殺鼠剤中毒	321	(6) 子牛の發育不良	349
(3) クロロピクリン中毒	321	4. 臓器・組織の構造・機能異常	350
(4) 除草剤中毒	321	(1) 拡張型心筋症(牛)	350
(5) 残留性有機汚染物質等による中毒	322	(2) 横隔膜筋症(牛)	350
(6) 食塩中毒	322	(3) 牛の前肢帯筋異常症(三枚肩)	351
(7) 鉛中毒	322	(4) 尿管異常形成(牛)	352
(8) 銅中毒	322	(5) 下顎短小・腎低形成症	353
第15章 新生子の管理と疾患	325	(6) 複合脊椎形成不全症	354
1. 新生子の特徴と生理機能	325	(7) ブラキスパイナ	354
(1) 循環系	325	(8) 軟骨異形成性矮小体軀症	354
(2) 呼吸系	325	(9) 眼球形成異常	355
(3) 消化器系	325	(10) 結合組織・皮膚の異常(マルファン, 皮膚無力症)	356
(4) 免疫系	326	(11) 単蹄・肢端の異常	356
(5) 臍	326	(12) 高カリウム血症性周期性麻痺	357
(6) 新生子の行動	326	(13) 遺伝性巨大結腸症	357
(7) 体温調節	326	(14) 悪性高熱症	357
(8) エネルギー代謝	327	第17章 生産獣医療システム	359
2. 新生子の管理	327	1. 生産獣医療の概念	359
(1) 新生子のための分娩管理	327	2. 乳牛の生産獣医療	359
(2) 新生子の評価および蘇生法	329	(1) 代謝プロファイルテスト	359
(3) 初乳と免疫	330	(2) MPTを用いた牛群検診	359
(4) 新生子の衛生管理	331	(3) 診断のポイント	363
3. 周生期疾患各論	331	3. 肉牛の生産獣医療	363
(1) 胎子期の障害	331	(1) 繁殖和牛	363
(2) 出生時の障害	333		
(3) 出生後の疾患	335		
(4) 新生子虚弱症候群	335		

(2) 肥育牛	(渡辺大作) 365	略語一覧.....	391
付表1 薬物と用量	(編集・執筆：古濱和久) 371	参考図書.....	399
付表2 臨床検査項目の基準範囲	(編集・執筆：佐藤 繁) 385	索引.....	401